



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
12/13 (月)	▲ 1,100	+ 4,400	+ 3,300	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補充供給 + 300 CP等買入 ▲ 200		日: 日銀短観 (12月調査)
12/14 (火)	▲ 1,000	▲ 8,000	▲ 9,000	源泉税揚げ			米: 生産者物価指数 (PPI)
12/15 (水)	▲ 2,000	+ 65,000	+ 63,000	年金定時払い	貸出増加支援オペ ▲ 29,000		米: 連邦公開市場委員会 (FOMC) 議長記者会見と経済予測
12/16 (木)	▲ 4,000	+ 2,000	▲ 2,000	国庫短期証券発行・償還(6M)			日: 貿易収支 (11月) 欧: ECB政策金利発表 総裁記者会見
12/17 (金)	▲ 1,000	▲ 8,000	▲ 9,000	国債発行(20Y)			日: 日銀金融政策決定会合 総裁記者会見

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初525兆9,800億円から始まった。12月9日までは大きな資金需給の変動要因がなかったものの、週末10日に5年債の発行等があったため同残高は減少し、523兆900億円で越週した。無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.035% (前営業日比+0.008%) から始まった。業態を問わず調達サイドのニーズが強かったため、同金利は日々上昇し、週末には△0.008%まで上昇した。ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.025%~△0.003%の水準で出合いが見られた。来週の主な予定は、国内で17日に日銀の政策決定会合及び総裁記者会見などがあり、海外では、15日に連邦公開市場委員会及びFRB議長の記者会見、16日にはECB政策金利発表および総裁記者会見などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.085 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.020
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

<レポ>

今週の足許GC取引は、週初△0.085%近辺の出合いから始まった。その後も週を通して同水準で推移。短期3Mの発行日となる13日受渡しではレートが上昇し、△0.055%~△0.05%の出合いとなった。SC取引では2年410~431回債、5年137~149回債、10年333~364回債、20年163~178回債、30年69~72回債、40年9~14回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.080 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約9,300億円で、週間償還額 (約3,300億円) を上回った。発行市場は、石油業や鉄鋼業等で大型の発行が行われ、活況となった。先週末の市場残高は25兆4,504億円であったが、12月9日時点では26兆313億円と増加した。発行レートは、一部の期越え銘柄や発行頻度の少ない銘柄等で、深いマイナスでの約定が見られる等、△0.080%台~0.000%での出合いとなった。来週の週間償還額は、約9,900億円となっている。発行市場は、良好なCP発行環境が継続しており、事業法人の税払い等の一時的な資金需要に対するCPの利用等が想定されることから、活発な発行を予想する。足元の市場残高は26兆円を超えており、昨年8月27日の過去最高市場残高 (26兆866億円) を更新するかが注目される。発行レートは、コロナオペ担保目的等の引き受け需要が強く、年越え銘柄や希少銘柄等はマイナスレートを中心とした出合いを予想する。14日に、CP等買入オペが5,000億円でオフアされる予定となっている。

[レンジ] CP3M (a-1+) △0.080%~0.000% 現先取引 △0.050%~0.000%

<TDB>

12月9日の6M1043回債(2022年6月10日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1062% (前回債△0.1330%)、平均落札利回り△0.1102% (前回債△0.1370%) となり、12月10日の3M1044回債(2022年3月22日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1068% (前回債△0.1451%)、平均落札利回り△0.1164% (前回債△0.1552%) となった。来週は12月14日に6M、12月15日に1Y、12月16日に3Mの入札がある。